

私の写生地

奥入瀬渓流散策記

会員 百瀬 太虚



▲ 「三乱の流れ」①

私の場合、取材は公共交通と徒步になります。荷物はカメラ一台です。気に入った場所は周りも含めて、露出を変えてズームも使い何枚も撮ります。一回の取材の撮影枚数は五百枚前後になります。

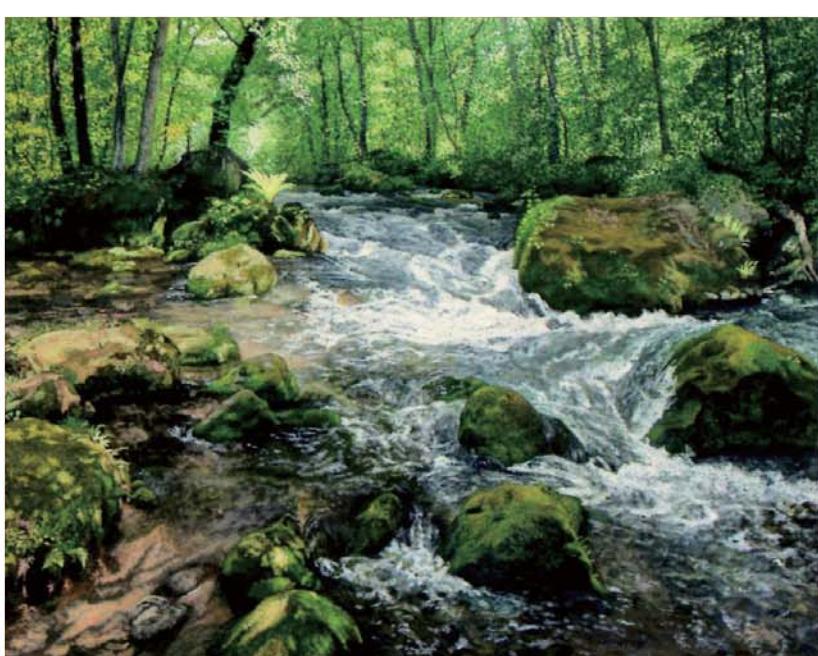
桜の取材では、北は北海道から南は九州鹿児島まで全都道府県を周りましたが、たいがいが一回限りの訪問になっています。そんな中でかれこれ十回以上は訪れている場所が青森県の奥入瀬です。五月の芽吹きや六月の新緑の中のエゾハルゼミの蝉時雨、十月の紅葉などいつ訪れても

心が洗われるところです。また、国立公園の中にあるため歩くのに危険な倒木を除く以外は、人の手が加えられていないため、行く度に景色が変わります。そこも魅力の一つです。

奥入瀬渓流の散策路は三乱の流れから十和田湖畔の子ノ口までの九キロ三時間の道程です。道標も整つており歩きやすく整備されています。トイレは石ヶ戸と子ノ口にあります。途中にも一箇所あります。渓流ス停は四箇所あります。

は南北に流れおり、切り立つ崖に挟まれていますので、木漏れ日を描きたい私にとって取材時間は限られます。最適なのは正午前後の五時間ほどでしょうか。最近は、それに合わせて現地を訪れるようになります。

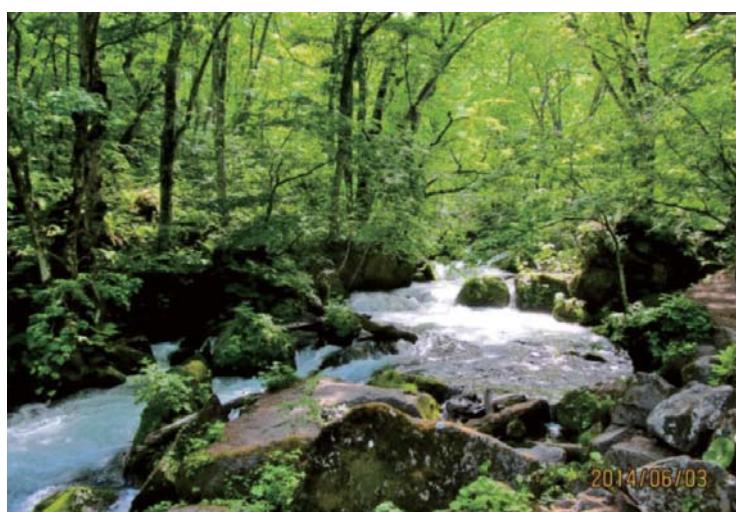
新宿発の弘南交通の夜行バスを利用すると、あさ七時過ぎには青森駅に着きます。駅横の蕎麦屋でソバを啜った後、売店で昼食のおむすびと飲み物を買ひ、七時五十分発のJRバス「みづうみ号」に乗ります。バスの中では青森や八甲田・奥入瀬のガイド放送がされます。萱野茶屋・蔦温泉で休憩を取りながら、奥入瀬渓流散策の拠点となる石ヶ戸に着くのは十時半頃です。最近はここで降ります



▲ 「水のささやき」②

スに乗って子ノ口まで行けば渓流の名所をガイドしてもらいます。石ヶ戸から渓流沿いの林の中を一キロ程下り、最初の目的地である「三乱の流れ」①に向かいます。ここは五月下旬に咲く、川の中に点在する岩の上の赤いツツジが見ものです。もつと下流には紫明渓という名所もありますが遠いのでバスします。来た道を折り返し石ヶ戸に戻ります。

石ヶ戸から渓流沿いの林の中を一キロ程下り、最初の目的地である「三乱の流れ」①に向かいます。ここは五月下旬に咲く、川の中に点在する岩の上の赤いツツジが見ものです。



少し上流にたどると「石ヶ戸の瀬」になります。以前ここで百号を制作している人を見かけました。その上流が「奥入瀬の箱庭」②と言われるところです。ここは見所が多く、何度も絵にしています。ここから奥入瀬渓流のメイン「阿修羅の流れ」③までは少しあります。カメラマンや絵書きの多い場所で、白い水しぶきが豪快です。以前はよく描きましたが、木漏れ日がテーマになつてから

ノロ口まではもうすぐです。子ノ口からは休屋への遊覧船も出ており、時間のある方にはオススメです。時間のない私は最近はここから折り返し、バスがあればバスを利用しながら、木漏れ日がある流れを求めて三時過ぎまでさ迷います。太陽が山影に隠れる三時半頃奥入瀬に別れを告げ、JRバス「おいらせ号」で八戸に向かいます。八戸で新幹線に乗り一路埼玉

に。歩き続けた後、新幹線で飲むビルは格別です。